

出会いと繋がりを信じて生きたい

ちゅうじょう

中條 てい さん

鈴鹿市出身作家（映画「アイミタガイ」原作者）

1956年生まれ

趣味：ピアノ

好物：チョコレート

経歴：2007年7月より突然に執筆活動を始める。

著書：「ヴァネッサの伝言」「アイミタガイ」「太陽の小箱」など。

2026年内にさらに一冊刊行予定。



きっかけとこれまでの道のり

50歳になる頃、友人と兄を続けて亡くしました。ショックでしたね。生きている私が人生の時間を無駄に過ごしている気がして申し訳なかったです。だから何か有意義なことをやらねば、と思ったのが始まりです。そこでなぜやったこともなかった執筆か？ とは今でもよくわかりませんが、とにかく伝えたかったのかもしれないね、大きな悲しみを経て授かった何かを。今でもそれが常に自分の作品のテーマだと思います。勿論人生初の取り組みでしたが、道も知らないくせに出版する！という大目標を目指したことが、今思えば成功の鍵だったかなとも思えます。はじめてスキー板をはいた人が怖いもの知らずで急斜面を滑るような……（笑）

やりがい、喜び

出版してみて一番驚いたのは、こんな私がしたことを世間の人に応援して下さったことです。評価じゃなく、踏み切った行為そのものに拍手を下さる……人生観や価値観が変わるほどうれしく、有難かったです。そういう気持ちを持てたことで「アイミタガイ」という作品は生まれました。ホント、みなさんのおかげです。こんなやりがいのあることが他にあったでしょうか。

自分らしい両立

構想の閃きについては、適性があったかもしれません。苦勞を感じたことはなく、むしろ後になってよくこんなこと思いついたなと自分でも驚いたりします。構想ができれば、完成の日付を先に決めます。そこから垂らしたハシゴを登っていく感じで進めるので一日のノルマはありません。書きたければ書き、他の用事があればやらない日もあります。日付が近くなると追い込み力が出てたいてい間に合って完成しますよ。

これからの目標とメッセージ

ふつうの主婦だった私がこの道に入ろうとした時点ではちょっと踏み越えるような感覚がありましたが、その後はむしろ受け身の人生を歩んでいる気がします。目の前に差し出されるものを取るか取らないか、どっちへ進むのか、まるでゲームの中にいるみたい。でも、必ずいいところへ連れて行ってくれると、このゲームを信頼しているんです。（笑）この先の目標や挑戦もきっとそこに準備されているんじゃないかな。

求めても拒んでも、人は誰かと繋がって生きているんだと思えるようになったので、今は出会いとかご縁を大切にしています。好きや嫌い、楽しいやつまらない、そういう単純な判断だけじゃなく、ちょっと眺めてみてもいいんじゃないかな。古希を迎えるこの年になって、食ってみなけりゃわからない人生の味もあるのよ……なんて感じます。